

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 学 術 ）	氏名	佟 亜齋娜
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
日本における外国人女性の就業とライフコースに関する研究			
論文審査担当者			
主 査	教授	由井	義通
審査委員	教授	下向井	龍彦
審査委員	教授	畠中	和生
審査委員	准教授	熊原	康博
〔論文審査の要旨〕			
<p>世界経済のグローバル化により、社会的、文化的、経済的な方面において、ヒト・モノ・カネと情報はより一層の国際的流動が生じている。日本も例外なく、国際的な労働力の流入が進行しており、企業活動の多国籍化が進み、様々な業種において外国籍の雇用が増加している。1990年代以降、日本の雇用システムが大きく変化し、多くの日本企業は年功序列の日本的雇用慣習を廃止して欧米型の雇用システムを導入しつつあり、正規雇用を代替する形でパートタイム労働、派遣労働のような非正規雇用を拡大させた。このような雇用システムの変化や少子高齢化を背景として、本研究は日本における外国人の就業とライフコースについて、ジェンダー的視点を取り入れ、外国人女性の就業とライフコースに焦点を絞り、彼女らの海外就業にかかわる要素とライフコースに影響を及ぼす要因について明らかにすることを目的としたオリジナリティの高い研究である。</p> <p>本論文は、序章、本論としての4章、および終章によって構成される。各章の要旨は以下の通りである。</p> <p>序章では、労働力の国際化およびライフコースに関する既往の研究をレビューし、本研究の位置づけを明確化し、日本における外国人女性の就業について学歴や職歴などのキャリア形成の視点から、海外就職者のライフコースを解明する研究目的を述べている。</p> <p>第一章「日本における外国人女性の人口状況と地理分布」は、日本における在留外国人の人口属性について、『国勢調査報告』と『在留外国人統計』の公的統計データを利用して、国籍別・性別・都道府県別・在留資格別からみる人口属性の特徴を考察した。また、大都市圏の東京都、大阪府と地方圏の広島県（広島市、福山市、東広島市）と比較しながら、在留外国人の地理的分布について ArcGIS を用いて町丁単位でミクロな分析を試み、ジェンダー的視点から性別に外国人の集住地が形成要因を考察した。</p> <p>第二章「日本における外国人の求人情報」は、外国人向けの求人情報について考察した。外国人の求職者の大部分は、人材会社の web 上に掲載されている人材情報を利用しており、就労可能に該当する在留資格に関する統計データの分析と関連させて、求人情報をデータベース化した募集情報の特徴を考察した。その結果、大都市圏と地方圏の求人情報には地域差があり、労働需要のある職種の分析と、外国人を積極的に募集している業種を解明した。</p>			

第三章「日本における外国人女性の就職とライフコース」は、外国人女性の就職とライフコースについて考察している。日本における留学生の在籍状況と進路状況について考察し、卒業後日本企業に就業できた中国人高学歴女性労働者（生産年齢人口に該当する人）に絞り、アンケート調査を実施し、国際的労働力としての彼女らの就職とライフコースについて考察した。対象者の個人属性（在留資格の内訳、年齢階層、最終学歴、職業経歴、婚姻状況、語学能力など）及び職場状況（職務内容、就職先の業種および所在地、月額報酬、現職の情報入手手法、就業年数など）について考察し、対象者が日本企業への就業状況と日本での就業要因を明らかにした。

第四章「広島県における外国人女性の就業とライフコース」は、広島県における外国人女性の就業とライフコースについて考察した。広島県に居住する外国人女性の人口属性の特徴及び就労可能な在留資格の内訳を分析し、外国人女性就業者の就業状況及び日本で就業した経緯について、アンケート調査とインタビューを試みた（調査時期：2015年10月～11月；調査対象者は中長期間の在留外国人女性就業者）。彼女らの個人属性及び就業状況などについて考察した結果、国際就労では学歴などの教育背景、語学能力と人的資本が重要であることを解明し、外国人女性の就職プロセスとキャリア形成とそれらに与える要因について考察した。

終章では、各章の分析結果から日本における外国人の就業とライフコースに関して、以下のことを指摘している。就労目的の在留外国人は大都市圏への流入が顕著であり、その際には学歴、語学能力と人的資本が重要である。また、外国人女性就業者は伝統的な婚姻観念を保持しながらも、就業と婚姻の両立を求めていることが明らかとなった。

本論文は、以下の二点で高く評価できる。

(1) 統計資料を用いた GIS 分析とアンケート調査を組み合わせたマルチメソッドの方法をとることによって、外国人女性の就業の実態を明らかにした点でオリジナリティがあり、計量的手法により外国人女性就業者について GIS 分析を初めて行った研究であることも評価できる。また、審査付きの国際地理学会で採択されて発表したり、ポーランド、オーストラリア、アイルランドの国際学会での発表や紀要論文を英文で刊行するなど、成果を国際発信していることも評価できる。

(2) 労働力の国際化に関する研究は、地理学以外にも労働経済学や社会学などの隣接分野においても多くの研究があるが、日本における外国人の就業とライフコースに関して、就労目的の外国人は雇用機会が多く、賃金が相対的に高い大都市圏への流入が顕著で地域格差があることと、学歴や語学能力と人的ネットワークがキャリア形成には重要であることを明らかにした。また、調査対象の外国人女性就業者は就業と婚姻の両立を求めており、今日の日本社会における女性のキャリア形成の動向と相通じる傾向を明らかにした。

欧米圏を含めた国際的労働力移動に関する比較研究が課題として残るが、貴重な新たな知見を数多く提示しており、女性のキャリア形成の視点から国際的な労働力移動についてアプローチした重要な論文と評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成 29年 2月 7日

